

歳になっても耕作放棄しない 現役農家として省力化経営を目指す

大山町

北村雅文

はじめに

私は梨を主体に21歳で就農し、その後「梨と西瓜」中心の経営に移行し、西瓜の裏作でブロッコリーに取り組んできました。

平成5年の冷夏を境にそれまで主としていた梨栽培をやめ、白ねぎを経営の柱にブロッコリー、スイートコーン栽培による複合経営を始めた。平成15年には父母の高齢化により、夫婦2人での経営を目指し、重労働であった白ねぎからブロッコリーへ経営の柱を代えた。そして、チャレンジプランを活用してトラクターを整備、集落の中で唯一の専業野菜農家として、集落内の水田を借り受け、耕作放棄地の防止に努めながら経営の発展に取り組んできた。

しかし、私自身も歳を超え、重労働作業を減らして行きたいと考えるようになり、白ねぎ栽培の面積を縮小して取組を続けていたが、平成24年について白ねぎ栽培を断念した。

平成25年からは、JA鳥取西部が取り組んでいるがんばる地域プランによる機械整備を活用して、省力化・効率化を重視したブロッコリーとスイートコーンによる経営に取り組み、年とともに耕作面積が減少することなく地域に貢献した経営を目指し、取り組んでいる。

1 現在の概況

① 労働力

	年齢(才)	年間労働日数
本人		300
妻		280

②主な機械施設の装備

機械・装備	台数	導入年次
コンバイン・2条刈	1	H12
プラソイラー	1	H14
トラクター・28ps	1	H16
半自動定植機	1	H13
乗用管理機	1	H21
自動定植機	1	H22
ブームスプレーヤー	1	H25
動力噴霧器	1	H26
フレールモア	1	H26

2. 栽培面積の現況と目標

	H26	H27	H28	H29
初夏穫りブロッコリー	2.5ha	2.5ha	2.5ha	2.5ha
秋冬穫りブロッコリー	5.0ha	5.5ha	5.5ha	6.0ha
スイートコーン	26a	26a	26a	26a
水稲	30a	30a	30a	30a

3. 現在の耕地、圃場の現状と目標

	H26	H27	H28	H29
自作地	2.0ha	2.0ha	2.0ha	2.0ha
借地	6.1ha	6.6ha	6.6ha	7.1ha
合計	8.1ha	8.6ha	8.6ha	9.1ha

4 これから目指す経営

1. 集落内の高齢化で規模を縮小する農家の農地を少しでも多く担い、耕作放棄地の発生を防ぐことを目標に、機械整備による省力作業で 歳になっても経営を続け、地域貢献する。
2. 化成肥料を減らし堆肥・緑肥等の有機肥料を施用。ブロッコリーのきらきらみどりの栽培面積を増やし、所得向上をめざすとともに、肥料費の経費削減をおこなう。
3. 堆肥・緑肥などを施用し、良質な土作りを目指し、健全な農産物を栽培する。

5 将来の農業経営の取り組み

① 労働力計画

	H26	H27	H28	H29
本人	300日	280日	280日	280日
妻	280日	260日	260日	260日

② 作付面積と生産計画

		H25(実績)	H26	H27	H28	H29
初夏ブロッコリー	面積	2.5ha	2.5ha	2.5ha	2.5ha	2.5ha
	10a当り 収量	150cs	150cs	150cs	160cs	160cs
秋冬ブロッコリー	面積	5.0ha	5.0ha	5.5ha	5.5ha	6.0ha
	10a当り 収量	160cs	160cs	160cs	170cs	170cs
スイートコーン	面積	26a	26a	26a	26a	26a
	10a当り 収量	140cs	140cs	140cs	140cs	140cs
水稻	面積	30a	30a	30a	30a	30a
	10a当り 収量	400kg	400kg	400kg	400kg	400kg

6 課題

- ① 初夏ブロッコリーの収穫は6月末に終了し、8月中旬から定植の始まる秋冬ブロッコリーのほ場準備を考えると約1ヶ月の間に初夏ブロッコリーの残さ鋤込みや緑肥の鋤込みをしなければならない。作業時間が短期間に集中するため効率化を考える必要がある。
- ② 水稻、ブロッコリー、スイートコーンの農薬散布はホースを引っ張ってほ場内を歩いて行う。ホースの送り出し・巻き取りに人がつかないといけないため、二人がかりでやっているが、非常に重労働であり、特に水稻の防除と秋冬ブロッコリーの定植後の防除は猛暑の中での作業となるため、規模をこなすには省力化によって疲労軽減を考える必要がある。
- ③ 平成16年に導入した現在使用しているトラクターは、ブロッコリー6ha（初夏2ha、秋冬4ha）の作業を目標に導入したが、現在はその頃よりも栽培面積が増えており、現在の規模に合わせた馬力のトラクターによって効率的な作業を行う必要がある。

7 課題を達成するための改善対策

1. ブームスプレーヤーの導入

- ・ 一人で作業ができるように乗用が必要。ホースを引っ張ってほ場内を歩かないでいいので疲労を軽減でき、その分一日の作業面積を増やすことができる。

2. 動力噴霧機

- ・ スイートコーンなど乗用で入ることのできないほ場でも、一人で作業ができるように自動のホース送り出し・巻き取り機が必要。これによって省力化が望める。

3. フレールモアの導入

- ・ 収穫後のブロックリー残渣や緑肥を細かくすき込み、耕起回数を減らす機械が必要。また、細かくすき込んで土の中での分解を促進させることが、良質な土作りにもつながるのでフレールモアですき込むことが必要。

4. 大型トラクター（フロントローダー付）の導入

- ・ 馬力の小さいトラクターでは面積をこなすのに時間を要するため、効率を考え大型のものが必要となる。
- ・ 堆肥をほ場で広げるためにはフロントローダーが必要となる。
- ・ 2駆動車では、ちょっとしたぬかるみでも動かなくなるのでスムーズな農作業のために4駆動車が必要である。また、圃場が海沿いから山側まで分散しており、移動の時間を短縮し、効率よく作業を行うためにハイスピードが必要となる。
- ・ キャビン付きにすることにより、夏場の猛暑・乾ききった土埃の中での長時間に及ぶ耕運作業による疲労を大幅に軽減できる。

※1, 2, 3の機械については、共同利用の機械を活用することで対応でき、既に地域プラン事業を活用して組織で導入済。

8 機械導入計画

	H26	H27	H28	事業費	補助額
トラクター34ps	○			6,210千円	2,875千円

トラクター導入の補助残については、自己資金で対応予定。

※ 鳥取県特定高性能機械の利用規模の下限より

トラクター 28~35ps 未満 5.3ha